

花きの県別生産出荷概況(10月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	10月出荷見込み 千本		主産地	10月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
トルコギキョウ	青森県	8.55 (117%)		80 (100%)	40 (100%)	つがる市 田舎館村	40	40	20
	山形県	30 (99%)	ボヤージュシリーズ ロジーナシリーズ パレオシリーズ 他白八重、他ピンク八重、他黄八重 一重 他	819 (90%)	573 (90%)	JA新庄もがみ、JA山形もがみ JA新庄市、JA鶴岡 JA庄内たがわ、JA庄内みどり JA山形市 他	40	35	35
	茨城県	10 (100%)	セレモニーライトピンク セレモニーブルーフラッシュ アルペールホワイト レイナホワイト 他	60	45	常陸大宮市	30	35	35
	宮崎県	2.8 (97%)	ボレロホワイト コレソライトピンク	50 (99%)	13 (99%)	日向	40	40	20
ストック	山形県	13.8 (102%)	岩の白扇 神馬 精の一世	740 (102%)	320 (100%)	五所川原 三戸町	30	40	30
バラ	群馬県	15 (90%)	アヴァランチェ、サムライ他多数品種	860 (95%)	750 (94%)	利根沼田 前橋市 甘楽豊岡	25	40	35
	千葉県	3.6 (100%)	サムライ、ザ・テレサ、ローテローゼ、ノ ブレス	150 (100%)	120 (100%)	鴨川市	30	30	40
		2.4 (84%)	サムライなど			茂原市	30	35	35
		0.8 (100%)	ローテローゼ、ローレーナ等	50 (100%)	50 (100%)	神崎町	30	35	35
	茨城県	11 (98%)	サムライ08、ワム、 つくばエクスプレス、アプリコット、 アバランチェ、ファンシーローラ 他	350	260	笠間市 筑西市 石岡市 土浦市 かすみがうら市 他	30	35	35
	山梨県	3.8 (93%)	ローテローゼ サムライ 等	320	300	笛吹市 (御坂町)	35	35	30

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	<p>高温により前進出荷傾向での推移となっている。天候次第ではあるものの、10月後半は出荷が薄くなるものと思われる。</p> <p>・10月出し作型の生育は、短日処理により開花調節を行っていることから順調である。 ・開花期は前年よりやや前進傾向である。 ・病害虫の発生は少なく推移しており、品質は良好と見込まれる。</p> <p>抑制栽培では10月中旬から1月までの出荷が見込まれる。</p> <p>高冷地(椎葉)からの出荷。日量は80~100ケース程度。9月に入り気温も低くなったことから、品質も安定している。10月下旬~11月上旬で高冷地からの出荷は終了予定、12月から宮崎中央からの出荷が開始する。</p>	<p>現状 各産地、高温が続き前進傾向となり潤沢な入荷が続いている。下旬へ向けでは各産地減少。販売面では潤沢感もあり上旬は厳しい販売であったが中旬以降、お彼岸、プライダル、敬老の日と需要も重なり徐々に動きは回復し活発な取り引きとなった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 天候の影響がなければ時期により増減はあるものの、比較的安定した入荷が見込まれる。高冷地に加え、西南暖地の福岡、大分の出荷も始まる見込み。販売面ではプライダル需要主体の動きとなる模様。</p> <p>FAJ 10月下旬から出荷量の減少が予想される。引き合い強まり、安定相場で推移する見込み。</p> <p>第一花き 高冷地産の出荷も減少傾向となり、品質格差の単価差はあるが業務・プライダル需要を中心に安定した流れ。 @100</p> <p>世田谷花き 高冷地の切り上がり早く、中旬以降品薄になりそう。</p> <p>東日本板橋花き 気温が下がり高冷地も出荷おちついてくる。関東近在の出荷始まる。</p>
ストック	<p>作付けは平年並みであるものの、神馬・白扇には高温による奇形花(花のねじれ)が散見される。出荷量は概ね平年並みを見込む。</p>	<p>現状 現状出荷ありません。お客様からの問い合わせもない状況</p> <p>見通し</p> <p>FAJ 山形、福島からの入荷。中下旬増加の見込み。作付けは昨年に比べ増加傾向。</p> <p>大田花き 各産地、高温の影響を受け、生育は遅れている状況。昨年並みの遅れかそれ以上になる見込み。販売面では大きな需要なく、引き合いは弱い動きとなる見込み。</p>
バラ	<p>作柄: 並~やや不良 高温乾燥が続いたため樹勢の衰えや害虫の発生や、夜間冷房実施農家と未実施農家との収量や品質(花の大きさ等)に差も見られるが、全体的に出荷量、品質ともに問題ない見込み。</p> <p>生育順調。改植株の採花も始まる。出荷量は平年並みで品質は良好と予想。</p> <p>9月は残暑の影響で花の出荷を控える生産者がいた。今後気温の低下に伴い出荷量が増える見込み。</p> <p>順調な出荷となる見込み。</p> <p>・生育は概ね順調で、平年並みの出荷が見込まれる。 ・一部ほ場でハダニ類、虫害、分枝の下がりの発生が見られる。</p> <p>生育は順調である。</p>	<p>現状 プライダル、敬老の日、3連休需要などで引き合いが続く。特にSP品種、黄色、オレンジ系が良く売れていた。上位等級は高冷地中心で、西南暖地は50cm以下の下位等級中心の出荷。輸入品の本格的な出荷も始まり、エクアドル産、ケニア産を中心に安定した入荷があった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 下旬までは西南暖地の品質が良化しない為、引き続き高冷地中心の入荷となる見込み。本格的なプライダルシーズンに入る為、引き合いは強い見込み。</p> <p>FAJ 西南暖地の出荷、本格化し、入荷増量。相場も安定した流れで推移する見込み。</p> <p>第一花き プライダル需要中心の動き、品質格差の単価差は出る。入荷状況によるが概ね例年並みの流れ。 SD@75 SP@100</p> <p>世田谷花き プライダル中心に好調な動き。入荷量も順調。単価も保合い。</p> <p>東日本板橋花き 急な冷え込み、秋雨による品質低下・入荷減少が心配。</p>